# 玉川上水・野の花だより　No. ４５

## サネカズラ（ビナンカズラ：美男葛）*Kadsura japonica*

東京大学名誉教授　　中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川　幹子

2026 年　10 月 15 日



玉川上水の「稲荷橋」は、近くに稲荷神社があることから名付けられたと言われており、昭和２年 11 月に現在の橋が架けられました。1791 年に書かれた『上水記』には「作場橋」と記載されています。

橋の袂に大きな屋敷林があり、ケヤキの大木が、そびえています。このお屋敷を取り囲む生垣の中に、サネカズラがあります。

常緑のつる植物で、夏の頃、淡黄白の花が咲き、秋になると小球状の実となり、次第に赤く熟していきます。実が美しいことから、万葉の昔から日本人に愛されてきた植物で様ざまの歌に詠まれてきました。

*あしひきの 山さなかづら もみつまで 妹に逢わずや わが恋ひ居らむ*

作者不詳　『万葉集』巻 10　2296

*名にし負はば 逢坂山の さねかづら 人に知られで 来るよしもがな*

藤原定方　『後撰和歌集』　恋歌３・701　『百人一首』25

別名をビナンカズラ（美男葛）と言いますが、これは茎葉を水にいれておくと粘液が出るので、それを整髪用として使っていたためと言われています。奈良時代の美男子は、こうして身だしなみを整えたようです。





『日本植物誌』第 1 部（図版篇）サネカズラ

**サネカズラ　（ビナンカズラ、美男葛）　2026 年 10 月 11 日撮影　稲荷橋の袂**